

會 務

土木學會誌 第十五卷第二號 昭和四年二月

○昭和四年一月九日編輯委員會を開く、岡野會長、黑河内編輯委員長、菊池、鈴木、田中(豐)、田中(寅)、平山、山中、三浦の各委員出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月十五日役員會を開く岡野會長、井上、中川、兩副會長古市、日下部兩前會長加賀山、黑河内、福田、米山、中村、牧野の各常議員丹治、村兩主事田中編輯委員主席岡野會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△昭和三年度事業報告及決算報告を承認すること。

△昭和三年度豫算増減及流用の件は之を承認すること。

△未納會費缺損處分の件は死亡に依る分十八名金額二百十二圓五十錢退會に依る分七十五名金額五百六十三圓計九十三名金額七百七十五圓五十錢を缺損處分と爲すこと。

△昭和三年度に於ける優良論文は第十四卷第三號に掲載せる會員山口昇君の「Thermal Flexure of a Thin plate Heated on one Surface, Extentional Stresses taken into Account.」なる論文に對し昭和三年度第一土木賞牌を贈呈すること。

△關西支部昭和三年度事業収支決算報告は之を承認すること。

其の他會務に關する事項

○昭和三年十二月十五日會員名簿を發行し同月十七日各會員に配布せり。

○同年同月三十日會誌第十四卷第六號發行成規の手續を了し翌日各會員に配布せり。

○准員服部虎次君は「今井」と改姓、同金岡桂次郎君は「俊雄」と改名せられたる旨通知ありたり。

○下記の諸君は退會せられたり。

會員	内 田 富 吉君	福 岡 清 一 郎君	
准員	石 井 良 平君	大 淵 義 雄君	菊 地 政 雄君
	古 賀 孝君	白 石 不 二 生君	長 屋 源 太 郎君
	野 地 修 左君	渡 邊 彦 松君	

○昭和三年十二月十六日以降昭和四年一月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したる者下記の如し。(○印は轉格者を示す)

會 員 (二 名)		
○西 畑 常君	○長 澤 忠 郎君	
准 員 (十 三 名)		
石 井 晃 夫君	伊 原 貞 敏君	皆 川 久君
上 田 利 治君	西 野 間 正 造君	德 永 氏 吉君

清 水 淳 吉君	○加 藤 清 吉君	○遠 藤 忠 夫君
石 川 虎 三 郎君	藤 井 雄 之 助君	林 長 太 郎君
會 我 1 君		
學 生 員 (五 名)		
張 公 昶君	荒 井 力君	吉 川 宥 直君
眞 崎 力君	中 道 峰 夫君	

各 種 調 査 會 記 事

混 凝 土 調 査 會

○昭和四年一月十日第六回混凝土調査會幹事會を開く大河戸委員長黒河内，平山，藤井，田中(實)，三浦，岡部の各幹事野口，阿部，那須，小野の各委員，石井囑託出席前回到引續き草案第十六條乃至第二十二條及小川，糠澤，吉田の各委員より提出ありたる意見書の内草案第二十二條迄の分に對し討議をなせり。

協 議 決 定 事 項

△委員小川敬次郎君，同糠澤雄介君，同吉田彌七君より原案に對し提出ありたる意見書を印刷の上各委員に配布し意見を求むること。

△第二十二條の次に第二十三條鐵線の條項を追加し追加條項の草案は岡部，藤井の兩幹事に其の作成を依頼すること。

用 語 調 査 會

○昭和四年一月十一日第三回用語調査會幹事會を開く中川幹事長，黒河内，三浦，田中，荻原，山口，河口，樫木，菊地(英)，田中(豐)，平山，青木，中桐，樫部，藤井の各幹事那須委員，北村，中川の兩囑託出席前會に引續き撰定用語表により水力電氣，應用力學，道の各部に對し調査すべき用語に關し協議をなせり。

○昭和三年十二月十六日以降昭和四年一月十五日迄に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其他下記の如し。

寄 贈 を 受 け た る 分

會報第 3 號	1 冊	日 本 動 力 協 會
内外工業時報 12 月號及 1 月號	2 冊	最 新 工 業 普 及 會
仙臺高等工業學校紀要第 7 冊第 1 號	1 冊	仙 臺 高 等 工 業 學 校
啓明會，第 28, 29, 30 回講演集	3 冊	啓 明 會
研究報告第 5 號	1 冊	製 鐵 所 研 究 所

ワット第 2 卷第 1 號	1 冊	ワ	ツ	ト	社
工業と社會第 31 卷第 1 號	1 冊	東	京	工	業
工學第 1 號	1 冊	東	京	工	業
工學部紀要第 17 冊第 17 號	1 冊	東	京	帝	國
工業第 30 號及會員名簿	2 冊	大	阪	工	業
工業之大日本第 12 號	1 冊	工	業	之	日
工事畫報第 12 號及第 5 卷第 1 號	2 冊	工	事	畫	報
セメント界彙報第 201, 202 號	2 冊	セ	メ	ン	ト
電氣製鋼第 12 號	1 冊	電	氣	製	鋼
土木建築材料商報 1 月號	1 冊	東	洋	建	材
日立評論第 12 號	1 冊	日	立	評	論
名古屋工業會々報第 69 號及會員名簿	2 冊	名	古	屋	工
土木建築資料通信第 166, 167 號	2 冊	土	木	建	築
三菱電機第 1 號	1 冊	三	菱	電	機
シビル第 8 卷第 1 號	1 冊	シ	ビ	ル	社
交換の分					
衛生工業協會誌第 12 號	1 冊	衛	生	工	業
帝國鐵道協會々報第 11 號	1 冊	帝	國	鐵	道
機械學會誌第 136 號及 139 號	2 冊	機	械	學	會
建築雜誌第 516 號會員名簿	2 冊	建	築	學	會
工業要録第 12 號	1 冊	工	業	資	料
港灣第 7 卷第 1 號	1 冊	港	灣	協	會
電氣學會雜誌第 485 號	1 冊	電	氣	學	會
日本建築士第 3 卷第 6 號及會員名簿	2 冊	日	本	建	築
鐵と鋼第 11 號及第 12 號	2 冊	日	本	鐵	鋼
日本鑛業會誌第 524 號	1 冊	日	本	鑛	業
工政第 110 號	1 冊	工	政	會	
工業化學雜誌第 31 編第 12 冊	1 冊	工	業	化	學
同上歐文	1 冊	同	上		
會員名簿	1 冊	早	稻	田	大
造船協會雜誌第 81 號及會員名簿	2 冊	造	船	協	會
業務研究資料第 11, 12 號及官房研究所業務の概要	3 冊	鐵	道	省	官

前會長 會員 吉村長策君

本會前會長工學博士吉村長策君は昭和三年十一月二十一日薨去せられたり。本會は此の訃音に接し弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會員 與名本文爾君

同 比田孝一君

會員與名本文爾君は昭和三年十一月十一日、同比田孝一君は昭和四年一月逝去せられたり。本會は此の訃音に接し弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御隨意に御閱覽相成度候。

閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他 自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	務
Le Génie Civil	國	論
Railway Gazette	際	報
衛生工業協會誌	建	々
機械學會誌	造	々
業務研究資料 (鐵道大臣官房研究所)	帝	報
建 設	國	鋼
建 築 雜 誌	鐵	誌
工 學 部 紀 要 (東大, 京大, 九大)	電	鋼
工 學 報 告 (東北帝大)	氣	誌
工 業 化 學 雜 誌	電	製
工 事 畫 報	土	鋼
	木	誌
	日	論
	立	評
	名	々
	古	報
	屋	々
	工	報
	業	論
	會	誌
	々	誌
	滿	誌
	洲	誌
	技	誌
	術	誌
	協	誌
	會	誌
	々	誌
	其	誌
	他	誌
	寄	誌
	贈	誌
	雜	誌
	誌	誌

廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	}	裏表紙三面對向	一回一頁 60 圓	
		及廣告初頁		
		裏表紙三面		一回一頁 150 圓
		色アート		一回一頁 75 圓

○指定廣告は凡は一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一割引とす

○廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす



故 前會長 工學博士 吉村長策君

故 前會長 工學博士 吉村長策君 略歴

昭和三年十一月二十一日、秋深くして風冷やかなる夕、前土木學會長錦鷄間祇候從三位勳一等工學博士吉村長策君溘然として薨去す、享年六十九。

君は萬延元年三月大阪府南河内郡國分村に生る、天資穎悟俊慧、幼にして漢籍を修め明治四年堺縣立河泉學校に入り英人グレゴリー氏に就き英語を修む、七年文部省管轄の官立大阪英語學校に轉じ、八年嚴父病氣の故を以て一時歸郷す、十一年更に志を立て、上京近藤眞琴氏に就き専ら數學を修め、十二年工部大學校に入學す、學術優等の故を以て官費生となり十八年四月卒業す。

卒業後直ちに同大學助教授となり留まること一年、十九年六月水道工事計畫の爲長崎縣御用係を命ぜらる。されど經費三十餘萬圓に上る水道工事は當時の長崎市としては相當重大なる問題なりしのみならず長崎將來の發展と一般文化都市施設とに對する充分の理解乏しかりしを以て之に反對する市民少からず其の實施容易に決せざりき。其の間君は他方長崎港灣河川の改修工事に従事し、二十二年五月水道設備の議、決するや其の工師長となり直ちに起工、二十四年三月之を完成せり。當時我國に於て完成せる水道は、僅かに外人の設計に成りし横濱ありしのみにて函館は尙工事中に屬し、東京大阪に至りては漸く其の計畫を了へたるに過ぎざりき、しかも之等は何れも附近に水量豊富なる河川を有し直接之を引用するの便宜ありたれど長崎に於ては然らず、利用し得べき河川無きを以てまづ貯水の設備を計畫せざるべからず。當時陸地の測量遍からず地圖の信憑するに足るものなく、測量用機械も充分ならず、之に従ふ技術者も其の數、經驗共に乏しく關係諸文献亦參照に値するもの稀なりし事情の下に其の調査計畫の困難を極めたりしことは想像に餘りあり。而してこの難局に當りて屈せず我國に於ける水道貯水池の嚆矢たる難工事を完成せしめたるものは一に君の明晰なる頭腦と確乎たる決斷とに存したりき、又濾過池の如きも邦人技術者の手に成れる最初のものにして其の隠れたる苦心に就ては屢々君の述懐に接したる所なり。

二十四年八月大阪市の招聘に應じ、水道副工師長として故沖野博士を助けて専ら全般の計畫實施の衝に當り東京市に先だつこと約一年工を起こし二十八年十月竣功す。同年十一月廣島軍用水道工事長となり二十九年八月神戸市水道工事長に轉じ、かたはら海軍々用水道並に岡山市水道の調査計畫を囑託せらる。神戸に於て工學博士佐野藤次郎氏等を指導して造りたる石造堰堤は、曩に長崎に於て造りたる土堰堤と併せて我國貯水池堰堤の先驅をなせり。

三十二年九月海軍技師に任官翌年佐世保鎮守府經理部建築科長に補せられ在勤十一年、四十四年七月臨時海軍建築部工務監として海軍省に轉じ大正四年二月工學博士の學位を授けらる。九年十月海軍建築本部の設けらるゝや其の本部長に補せられ十二年

三月官途を退く、超えて十四年二月錦鷄間祇候仰付けられたり、海軍在職二十餘年の間佐世保に於ては日露の大戦に際し遠く臺灣朝鮮に亘る廣大なる戦線内の戦備工事を實施して遺憾なからしめ、又工務監及建築本部長として中央に在りては我海軍擴張期に於ける各軍港土木建築の計畫按配を主宰し綿密周到之が完成に盡す、大海軍の需要に適應して遺憾なき各軍港の水陸施設は無言の裡に君が不朽の業績を傳ふに足る。

又海軍に於ける軍港水道の外長崎門司小倉福岡佐世保及長野各市水道の新設擴張工事の顧問となり其の計畫實施を指導す、前後四十年の長き技術者生活の大半は我國水道工事と終始す、君が斯界に對する貢獻偉大なりと謂ふべし。宜なる哉、君、病革をや特に勳一等に叙し瑞寶章を賜ひ君が不滅の功績を録せられしことや。君資性濶達にして情誼に厚く後進に對してはよく各自の特質を洞察して其の趨ふ所を教へ、指導誘掖寛嚴其の宜しきを得てよく部下の心服を得たり。君が計畫をたつるや其の明晰なる頭腦と該博なる學識とを以て之に臨み難事を意とせず細事を忽にせず、一度決すれば敢然としてあらゆる障礙を排して之を斷行したり、而して君の明晰なる辯舌と卓越せる理論とは必ずや人を説得せずんばやまざるの風あり、唯に優越せる技術者たるのみならず事務家として將た政治家として亦必ずや有爲の材なりしことを想はしめたり。明治三十四年佐世保市水道に於て既に計量給水の制を採りしが如き、以て君が明を證するに足るべく、明治三十二年海水に觸接する工事及水道工事に使用するセメントの重要なるを慮り時の海軍大臣山本權兵衛氏に建議し官に於て要する之等のセメントの購買は隨意契約に依ることを得る勅令の發布を見るに至らしめしが如き君が卓識を證して餘りあるべし。

君晩年令闔を失ひ、震火の災厄に會ひ次で令嗣と二令嬢とに先だゝれ、君自ら亦健康を害し長く病床藥餌に親しみしは、君を識るものゝひとしく同情禁ぜざりし所なり、令嗣歿後愛明卓爾君を入れて後嗣とす。

君功成り名遂ぐ。しかも吾等は尙大なる活躍を君の將來に期待したるに卒然として今や亡し、君逝いて人をして大なる空虚を感じしめ寂寞を思はしむるものまた以て偉大なる君が人格の一證左たらしむるに足らんか、哀しい哉。

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿は凡て本文冒頭に内容梗概を添附し表題及内容梗概の英譯を併記せられたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。

(イ) 圖面は其の儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。

(ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。

(ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。

(ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。

(ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。

- (7) 寫眞は特に明瞭たるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。

算式其の他の記し方大體標準。

- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+cd}$ と書き $\frac{a}{b+\frac{c}{d}}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避けること。

83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。

新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配付致すべくに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

残 部 内 譯

第五卷一號二號	一部金 壹 圓
第六卷六號	同 金 壹 圓
第七卷二號三號四號	同 金 壹圓五拾錢
第八卷一號	同 金 貳 圓
第九卷一號二號三號五號六號	同 金 貳 圓
第十卷二號三號四號五號六號	同 金 貳 圓
第十一卷二號	同 金 貳 圓
第十二卷三號	同 金 貳圓五拾錢
第十二卷二號五號六號	同 金 貳 圓
第十三卷二號三號六號	同 金 貳 圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同 金 貳 圓
第十五卷第一號	同 金 壹 圓
東京市内外交通に関する調査書	同 金 參 圓
大阪市内外高速鉄道調査會報告書	同 金 壹 圓
土木學會誌索引	同 金 五 拾 錢
震害調査報告書 (一、二、三)	同 金 拾 六 圓

本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の宿所の不明なるときは會誌の配付を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月	自五月至八月	自九月至十二月
		第一期分二月徴收	第二期分六月徴收	第三期分十月徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五名錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割計算とし入會の翌月集金を發す

會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配付を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年二月四月六月八月十月十二月(印刷又は原稿等の都合に依り翌月上旬配付の事あり)に發行し漏なく配付すべくに付翌月末着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配付不可能のことあるべきに付御留意相成たし